

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



希望の光バプテスト教会

2022年 12月 4日 (日)

礼拝メッセージノート

「メシアが世界に来られる ~光、またいのちであるお方」

【 ヨハネの福音書 1章 】

- 1 初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。
- 2 この方は、初めに神とともにおられた。
- 3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。
- 4 この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。
- 5 光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。

(4ページへ続く)

◆はじめに ～アドベント（待降節）が始まった

1. クリスマスはキリスト（メシア）の降誕を記念し、祝う教会行事である。
2. イエスが存在し、多くの人々に影響を与えたことは歴史的事実である。
3. 「イエスが何者か」：使徒たちの主張（新約聖書）を元に解き明かしてゆく。
 - ①使徒ヨハネの記録は、既にあった3福音書を補い、更にイエスを明らかにした。
 - ②本書序文は、崇高なキリスト論（他にはコロ1：15～17、ヘブ1：1～3）

◆メッセージのアウトライン紹介とゴール | クリスマスの意味を味わう

*このメッセージは、クリスマスの意味を再確認し、その喜びを深く味わうためのものである。

I 降誕された赤子は「ことば」と呼ばれる（1～3節）

1. イエス誕生物語は、旧約聖書の文脈に則ったものである。

- (1) 福音書のイエスに関する記事は、基本的には時系列順である。
- (2) ヨハネは他の3福音書よりもさらに遡って、イエスの初めを書き記した。
- (3) それは、創世記1:1以前のイエス・キリストである。
 - ①ベツレヘムの荒野に降誕した「イエス」は何者かを論じている。
 - ②それは、クリスマス本来の意味と、その価値に関わる問題である。
 - ③「はじめに」：キリストは何者かに造られた“神”（偶像）ではない。



2. 「ことば」※（ギ：ロゴス）とは何か ※序言でのみ使用した表現

- (1) ヨハネはギリシャ語で記したが、ギリシャ哲学を論じた訳ではない。
 - ①当時、地中海周辺ではコイネーギリシャ語が用いられた。
 - ②ヨハネはユダヤ人で、ガリラヤの漁師である。
- (2) ヘブル語では「ダバール」である。
 - ①「ことば」が人格的存在であるかのように行動している。
 - ②例：創15：1、詩33：4～6、147：15、イザ9：8、55：10～11、エゼ1：3など
- (3) ユダヤ教のラビたちも、アラム語「メムラ」という概念を使用した。
 - ①これも「ことば」という意味である。
 - ②「メムラ」は、神とは区別されるがまた神である。
 - ③ヨハネは「メムラ」をギリシャ語の「ロゴス」に置き換えて表現した。
*つまり、「ことば」は天地創造以前から存在した。

- *また神と共にあり、神と親しく、そして神と一体である。
- *メシアは天地の創造にも参加した。（神以外のもの、天使を含む全ての創造）

II 光と闇のはざままで（4～5節）

1. 「光の闇の戦い」はヨハネの福音書のテーマの一つである。

- (1) これはギリシャ哲学（グノーシス主義の二元論）の異物ではない。
 - ①侵入して来た闇（悪魔）の国から、栄光の奪還を試みる神の戦い。
 - ②聖書が示す世界観は、この戦いのはざまに人間を置いている。
- (2) 最後は必ず神（光）が勝利を収める。
 - ①メシア降誕は勝敗の肝である。
*5節の場合は「闇は光を理解しなかった」の方が良いと思われる。

2. 「光」と「いのち」※が関連付けられている。 ※「ギ：ゾエー」

- (1) メシアはいのちの源である。
 - ①創造主が与える肉体のいのちと、贖い主が与える霊的いのち
 - ②救い主が与える永遠のいのち *参照 1：14
- (2) 闇はその逆であり、死とさばきにつながる。

◆まとめ：クリスマスの意味を味わう

1. クリスマスに礼拝すべきお方は「ことば」

- ①それはメシアを表す表現で、神であるお方が肉の体をもって下さった。
- ②神であるお方がまた神と区別されるパラドックス：三位一体の教理
- ③旧約聖書が指し示すメシア預言の成就
*神のタイムテーブルの啓示「七十週の預言」 ダニエル9：25

2. クリスマスは「光」が来られたお祝い

- ①イルミネーションに込める願い。電飾や太陽光以上の光であるお方の到来。
- ②それは、ユダヤから世界中にいのちを与える希望の光である。

3. メシアの生涯の証しは、信者の共同体が共有する。 *ヨハ21：24

- ①それは個人でひっそりもっているべき情報ではない。
- ②共同体（教会）が共有し、この世に証しすべきものである。
*この世のどのような情報よりも、本体大切な真理である。
- ③クリスマスは、メシアの降誕を覚え、記念し祝うものである。
*ベツレヘムでの降誕劇は、メシアの生涯（公生涯ではない）の最初である。